氏名： 池本　真二（IKEMOTO Shinji）
所属： 人間文化創成科学研究科自然・応用科学系
職名： 准教授
学位： 博士 (栄養学) 取得 (徳島大学)(乙栄第 42 号) ／栄養士登録 (徳島県栄養士名簿番号 4333 号)
管理栄養士登録 (登録番号 33513 号) ／普通第一種圧力容器取扱作業主任者
専門分野： 栄養学 (特に、栄養生理学、分子栄養学、臨床栄養学)
URL： http://www.is.ocha.ac.jp/~itot/　http://ito.is.ocha.ac.jp/
E-mail： ikemoto.shinji@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

生活習慣病予防／食育／インスリン抵抗性／メタボリックシンドローム／高脂肪食
Prevention of lifestyle-related diseases ／ SHOKUIKU ／ Insulin resistance ／ Metabolic syndrom ／ High-fat diet

◆主要業績　　総数（5）件

・【著書】病気症状別　クスリになる食材事典　池本真二、木山広共著、 土屋書店、 2009 年 3 月
・池上幸江，山田和彦，池本真二，倉田澄子，清水俊雄，藤澤由美子，由田克士，和田政裕，坂本元子
栄養・健康表示の社会的ニーズの解明と食育実践への活用に関する研究.
日本栄養・食糧学会誌，61(6)：285-302，2008.
・小田浩之，池本真二，角田伸代，岡 純，樋口幸治，佐久間 肇，池川繁樹，稲山貴代
腕時計型行動識別計による脊髄損傷者の日常生活活動量の評価に関する基礎的検討.
日本臨床スポーツ医学会誌，17(2), 2009.
・Shoko Miura, Masayo Nakamori, Masumi Yagi, Ophelia L. Saavedra, Shinji Ikemoto, Shigeru Yamamoto
Daily calcium intake and physical activity in urban women living on low incomes in Davao, Philippines
Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition（投稿中）
・高尾　優，足立　奈緒子，松本　麻衣，池本　真二
保育園児への食育介入及び保護者への教育介入の有効性に関する検討.
日本栄養士会雑誌（投稿中）

◆研究内容　／　Research Pursuits

1. 脂質栄養に関する研究：　主として、肥満・メタボリックシンドロームの発生機序ならびにその予防法に関する分子栄養学的研究を行っている。本年度は、主として発芽玄米、魚油、パーム油、トコトリエノールのインスリン分泌能、インスリン抵抗性に及ぼす影響について検討した。魚油の耐糖能改善メカニズムとして、水添魚油を用いて検討を行った結果、その構造による影響と、脂質の酸化防止の目的で添加されている抗酸化物質の影響の両方が複雑に寄与していることが分かってきた。また、パーム油の耐糖能改善メカニズムとして、パーム油中に含まれる抗酸化物質であるトコトリエノールによる筋肉での糖質の取込能の改善が寄与していることが明らかになり詳細な検討を続けている。
2. 脊髄損傷者の運動処方・生活指導に関する研究：身障者の食事摂取基準を作成することを目的に本年は、腕時計型行動識別計（一軸の加速度センサーに加え角速度を感知するジャイロ機能を搭載した行動識別計）を用いて、日常の生活活動量の評価を行った。
3. 小児栄養に関する研究：　幼児に対する食育をどのように進めると効率の高い成果が期待できるのかを明らかにするために、本年度は園児とその保護者を対象に食および日常生活に関する介入を行った。対象者は新宿区公立保育園 6 園の園児約 360 人とその保護者とし、園児には月 2 回の参加型教育媒体を用いた介入を、保護者には月 2 ～ 3 回の食・健康に関するリーフレットを用いた情報提供を行った。食生活習慣に関する意識・知識の変化を主体としてその有効性を評価・検討している。

Our laboratory carries out research into analysis of lifestyle-related diseases, such as obesity, diabetes mellitus and hyperlipidemia with the use of molecular biological procedures. Furthermore, we research nutritional methods of preventing and treating such illnesses using individuals, with consideration given to their genetic background.

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部では、2 年次の科目である「臨床栄養アセスメント学」で、ベッドサイドにおける個人の身体測定値や身体組成、血液性状、栄養素摂取状況、食習慣などの情報を基に、栄養必要量、栄養状態を科学的に評価する理論的背景や方法を解説するとともに、傷病者の病態や治癒の経過に伴い変化する栄養状態の動的な評価の方法について解説した。3 年次の科目である「臨床栄養療法学」並びに「食事療法学」では、海外の登録栄養士養成のテキストブックである「Food, Nutrition, & Diet Therapy」を用い、新しい概念体系である「医学栄養療法」を基本線として指導し、その実践能力の習得を目指して、学内実習である「臨床栄養アセスメント学実習」を行っている。さらに 4 年時には、臨地実習として 13 の医療施設に 3 週間の実務研修行っている。

大学院では、「臨床栄養学特論」において、医療現場における栄養管理システムのあり方について解説した。なお、個人（患者）の栄養管理をしっかりと実施するには、その病態を知らなければならない。それ故、病態から学ぶと題して、様々な症例の病態解析を行うことによって生体の病態生理並びに病態生化学を学ぶ機会とした。

学内に「栄養ケア・ステーション」を設け、大学院生並びに学部学生の食育活動、保健指導の実戦経験を積む場として役立てたいと考えている。

The dietitian in medical nutrition therapy applies the science of nutrition to the care of people through health promotion and disease prevention; and uses medical nutrition therapy in the treatment of disease. As a member of the patient-care team, the dietitian is responsible for assessing, implementing, and monitoring the nutritional care of patients. In addition, the dietitian may serve professionally as a nutrition practitioner in health care; a teacher in an educational institution; a research dietitian; or a nutrition consultant-educator.

◆研究計画

脂質摂取によって発症するインスリン抵抗性の発症メカニズムの解明ならびにその予防法の開発を目標に、広く生活習慣病（メタボリックシンドローム）の予防に生かしていきたいと考えている。肥満を呈すれば、インスリン抵抗性を生じるものと考えられがちであるが、抗酸化物質がこれを防御していること、さらには、様々な食品・食品成分（魚油、パーム油、発芽玄米、茶カテキン、トコトリエノール、トコフェロールなど）がインスリン抵抗性あるいはインスリン分泌能に関わることがわかってきている。肥満と耐糖能、インスリン抵抗性、インスリン分泌能等の関連を詳細に検討するとともに、生活習慣病の予防に有効な食品並びに食品成分、さらには食事の取り方について明らかにしたいと考えている。

◆メッセージ

「管理栄養士が行う研究とは何か？」を常に意識しながら研究を行っていきたいと考えている。栄養問題を抱えた患者さんあるいは対象者の方が目の前にいらっしゃって、その問題を如何に改善するかが究極の課題である。私は、蛋白質・エネルギー必要量に関する研究から取り組み、現在は脂質栄養学の領域で、脂質摂取過剰によって生じる慢性代謝異常、いわゆるメタボリックシンドロームの予防に関する研究を行っている。平成 20 年度からスタートした特定健診･特定保健指導は、まさにこの予防を国の施策として具現化したものである。諸先生・諸先輩方がその様に導いてくれたものと感謝している。受験生の皆さんも、皆さん自身の興味・関心のある事柄について深く研究してみませんか？「Just do it!」の精神で。きっと夢は叶います。真摯に取り組めば。それを私に実感させてくれたのは、母校の徳島大学医学部、国立健康・栄養研究所（厚生労働省）、そして米国留学の米国 UT Southwestern Medical Center at Dallas の諸先輩方だったかも知れません。出会いを大切にしてください。